

コラム

《腰折れ文》 二十一、

渡邊澄子（会員）

日本は世界の変化に立ち遅れ、不幸状態を示す資料に溢れている。国際女性デーに合わせてMe TooからはDear Girlsで女性の地位の日本の平等度は110位、議員数は165位。管理職はG7で最下位の12割と恥ずかしい実態が浮上。男女平等の憲法から73年も経っているのに。女性活躍推進を政策に掲げたご本人の意識が明治憲法・教育勅語への回帰を望む日本会議派なのだから恥認識はないのだろう。4選の声が上がっているがとんでもない。「むしろ早期退陣を求みたい」（琉球新報）。

日本は果たして民主国家と言えるのかの象徴例は政府の沖縄対策であろう。「沖縄の民主主義とサンゴを守れ」と辺野古基地建設中止を求める第2弾の請願署名が米国で始められ、抗議行動がなされているというのに、日本政府は沖縄県民の70割超の反対、1万人超の抗議集会にも馬耳東風で土砂投入を止めないのには、怒りを通り越して啞然とさせられる。軟弱地盤の問題の解決策など持っていない。県の試算では13年の工期と2兆6500億円の工費（これ税金）がかかるだけでなく、世界にも例のない難工事なので完成はおぼつかないらしい。普天間の早期返還などあり得ないことを彼らは知悉の上で強行している。結果の責任をどうとるのか見たいものだ。住宅地にあつて騒音、危険に常時さらされている軍事飛行場として普天間とは比較にならぬ規模の嘉手納基地は押しつけたままでいいのだろうか。世界的な宝のジュゴンやサンゴその他の命も危ない。

3月26日は74年前に沖縄戦の始まった日だった。九死に一生を得た当時女学生だった90歳の女性の、国の犠牲になる悲劇を繰り返すな、政府の要人が沖縄の歴史を正しく理解していれば、県民の反対を無視して埋め立てを平然と強行できるはずがない、「政府の姿勢に恐ろしさを感じる」と述べているが、その心情の真実に心が疼く。マララさん来日。臆せぬ姿勢は見事。

安倍・菅・岩屋氏らの発言や対応には、本人の認識有無にかかわらず沖縄人は国民ではないという差別があり、これは暴力であるとの分析（野村浩也「琉球新報」）は納得させられる。敗戦を目前にして凄絶な沖縄戦に追い込んだ責任をとるどころか犠牲を押しつけて心の痛まないうちが為政者の資格はない。哀し過ぎる。

統計不正問題、森友・加計問題の未解決、法制局長官の暴言、東日本大震災の避難者なお5万2000人、原発事故対応費用81兆円、避難者の甲状腺測定

いい加減さ、廃炉問題、原発なし可能なのに原発へのしがみつき、首相自らの原発売り込み、首相発言で初めて知った徴兵制度が想像される自衛官募集、天皇退位・即位行事等々、本気で考えなければならぬ課題が山積。ああ、たまらない。

それにしても、心愛ちゃんの親による惨死に言葉を失う。「心愛」は『字通』にも「みあ」と読む例はない。「心」「愛」なんて字は美しいのに。10代前半の死因が自殺最多とは！子どもたちの生きにくい社会に未来はない。小学校の制服に高級イタリア製のお次は小学校の卒業式に袴とはどうかしている。都道府県議選に無投票が半数で、女性当選が少ないのは「票ハラ」によるという現実は見逃せない。ニュージールランドで銃乱射事件。大学名誉教授の友人がしばらく日本に帰っていたが、やっぱりあっちの方がいいと戻ったばかりだったので心配。倫理や論理はどこに？